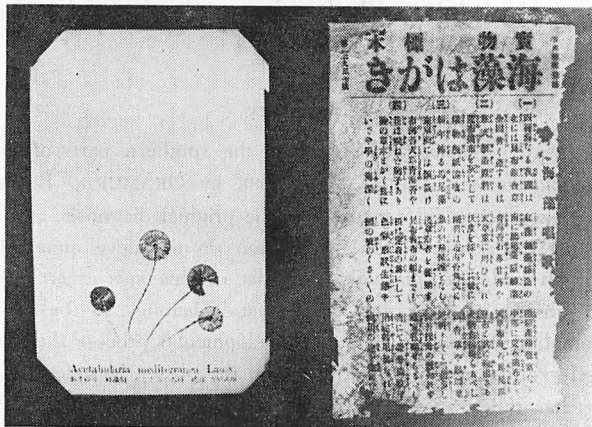


M. H.: The morphology and classification of some Ceramiaceae and Rhodomelaceae 1963.

海藻はがき実物標本集

猪野俊平

昭和38年度日本植物学会岡山大会の懇親会の余興は備中神楽であったが、あれはその昔、西林国橋神官の案と伝えられている。大森(西林)長朗君の家はその分家すじで、成羽町の旧家だが、父上は大阪市の小学校長をされた人である。先日古い土造の倉の整理をしていたら、写真に示すような古い葉書形五拾種 ALGAE JAPONICAE EXSICCATAE POST CARD 50 SPECIES という海藻標本(多分大正の中期)という50年前のものが見つかった。大森君が海藻学を学ぶようになったの不思議な縁だと話しあった。標本もよく保存され、琉球喜屋武岬のカサノリから、日高浦河のナガコノノリと、南から北のものが揃っている。緑藻類は硫酸銅で色づけしてある。



それにも増して面白いのは、この海藻はがき実物標本集に下に示すような海藻唱歌がはってあった。海藻のPRは実に見事なもので、達藤吉三郎先生か岡村金太郎先生らしいところもあるのだが、作者不明なのが残念である。

(一)

銀杏草や麒麟菜
糊料は布海苔角又は
織物製紙漆喰の
火薬食塩得らるべし
沃度を採りし其後に
荒布搦布を灰にして
昆布と共に輸出さる
天草重に用ひられ
寒天製造原料は

天草布海苔馬尾藻
青海苔石蓴甘苔や
全国普く産するは
中部に荒布搦布あり
南に鰯菜麒麟菜
北には昆布銀杏草
種類産額豊富なり
紅藻褐藻緑藻の
四面海なる我国は

(二)

利用の途を究めなん
国の宝のくさぐさの
いでや学の海深く
用途効用異なれり
色彩形状生態や
陸の草木とかく迄に
体にて養分吸収す
根は定着の為にして
花は咲ねど胞子あり

適宜養殖せらるべし
昆布若布の類までも
布海苔天草青海苔や
海苔探舟の数知れず
浅草海苔を養殖す
東京湾には浜設け
肥料としても価値多し
魚の繁殖保護をなし
新年飾る馬尾藻

(三)

(四)

(岡山大学理学部生物学教室)

学会録事

会員移動

(昭和40年4月1日より昭和40年8月15日まで)

新入会 (13名)